

保幼小連携に係る調査結果について

1 調査の趣旨

いわき市保幼小連携プログラムを策定するにあたって、本市の保育所・認定こども園・幼稚園と小学校との連携・接続に関する現状と課題を把握する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

市内全ての保育所、認定こども園、幼稚園、小学校:175施設

<内訳>

- ① 保育所56園(内訳:私立25園、公立31園)
- ② 認定こども園4園(内訳:私立4園)
- ③ 幼稚園47園(内訳:私立33園、公立14園)
- ④ 小学校68校(内訳:私立1校、公立67校)

(2) 調査実施時期

平成30年3月

3 回収率 96.0% (168/175)

<内訳>

- ① 保育所 94.6% (53/56)
- ② 認定こども園 100.0% (4/4)
- ③ 幼稚園 91.5% (43/47)
- ④ 小学校 100.0% (68/68)

○ 調査結果

1. 保育目標・教育目標について(調査対象:全施設)

【 主な文言等 -抜粋- 】

<保育所(園)、幼稚園、認定こども園>

- 子どもが現在を最も良く生き、豊かな人間性と望ましい未来を作り出す力を育てる。
- 子どもが保護者との安定した関係を保てるように保護者の支援にあたる。
- 自分の気持ちと体を大切に子ども
- 友だちを大切に子ども
- 自分で考え行動する子ども
- 豊かに感じ表現する子ども
- 人の気持ちに気付き寄り添う子ども
- 思いやりのある子
- 明るく素直な子
- 自分のことは自分でする子
- 基本的な生活習慣を身に付ける
- 物事を最後までやり抜く子ども
- 集団生活の中でともに楽しみ、自己を発揮できる子どもを育てる。
- 元気な子ども
- みんなと仲良く過ごせる子ども
- 約束を守る

<小学校>

- 思いやりのある子ども
- よく考える子ども
- たくましい子ども
- 進んで学ぶ子ども
- 健康な子ども
- ねばり強く学習する子ども
- がんばる子ども
- よく働く子ども
- みんなと仲良く、助け合える子ども

2. 子どもの成長・育ちにおいて近年特に大事にしていること(調査対象:全施設)(自由記述)

【 主な回答(要旨) -抜粋- 】

<保育所(園)、幼稚園、認定こども園>

- 子どもの成長の喜びを保護者と共有する。保護者が喜びを感じながら子育てできるように支えていくこと。保護者支援。
- 一人一人の個性を大切にする。
- 体作り
- 自分で考え、自分で行動すること。
- 様々な体験を通して、豊かな感性や思考力、創造性を育てること。
- 自己肯定感の形成
- 協調性
- 命を大切にする。
- 基本的な生活習慣を身に付ける。

<小学校>

- 基本的な生活習慣を身に付ける。
- 思いやりの心
- 自分で気づき、考え、行動する子ども
- 根気強く最後までやり抜く子ども
- コミュニケーション能力
- 命の大切さ
- あいさつ
- 自己肯定感を高める。
- 表現力

3. (1) 保幼小連携の意義のうち重視しているもの(調査対象: 保育所、幼稚園、認定こども園)

保幼小連携の意義のうち重視しているものとして、保育所、幼稚園、認定こども園では、「幼児期にふさわしい生活を通して幼児自身が創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培うようにすること」や「小学校教育の学習の基盤となるよう幼児期の生活や遊びを充実させること」をあげたところが多かった。

※ 下記の選択肢に順位をつけて回答

選択肢	件数及び各順位に占める割合											
	1位		2位		3位		4位		5位		6位	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
(ア) 小学校教育の学習の基盤となるよう幼児期の生活や遊びを充実させること	24	23.5%	45	47.9%	13	13.8%	7	7.6%	6	7.1%	0	0.0%
(イ) 幼児期にふさわしい生活を通して幼児自身が創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培うようにすること	60	58.8%	24	25.5%	7	7.4%	2	2.2%	1	1.2%	0	0.0%
(ウ) 就学が、幼児にとって憧れや喜びが感じられるものとなるよう配慮すること	15	14.7%	10	10.6%	46	48.9%	16	17.4%	8	9.4%	0	0.0%
(エ) 幼児期の教育と小学校教育が円滑に接続するカリキュラムを工夫すること	0	0.0%	11	11.7%	19	20.2%	37	40.2%	24	28.2%	0	0.0%
(オ) 幼児と児童の交流、職員同士の交流に取り組むこと	1	1.0%	4	4.3%	9	9.6%	30	32.6%	46	54.1%	1	50.0%
(カ) その他	2	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%
計	102	100%	94	100%	94	100%	92	100%	85	100%	2	100%

3. (2) 保幼小連携の意義のうち重視しているもの(調査対象: 小学校)

保幼小連携の意義のうち重視しているものとして、小学校では、「就学が、幼児にとって憧れや喜びが感じられるものとなるよう配慮すること」や「発達のつながりを意識し、幼児期から児童期への発達の段階に対する認識を深めること」をあげたところが多かった。

※ 下記の選択肢に順位をつけて回答

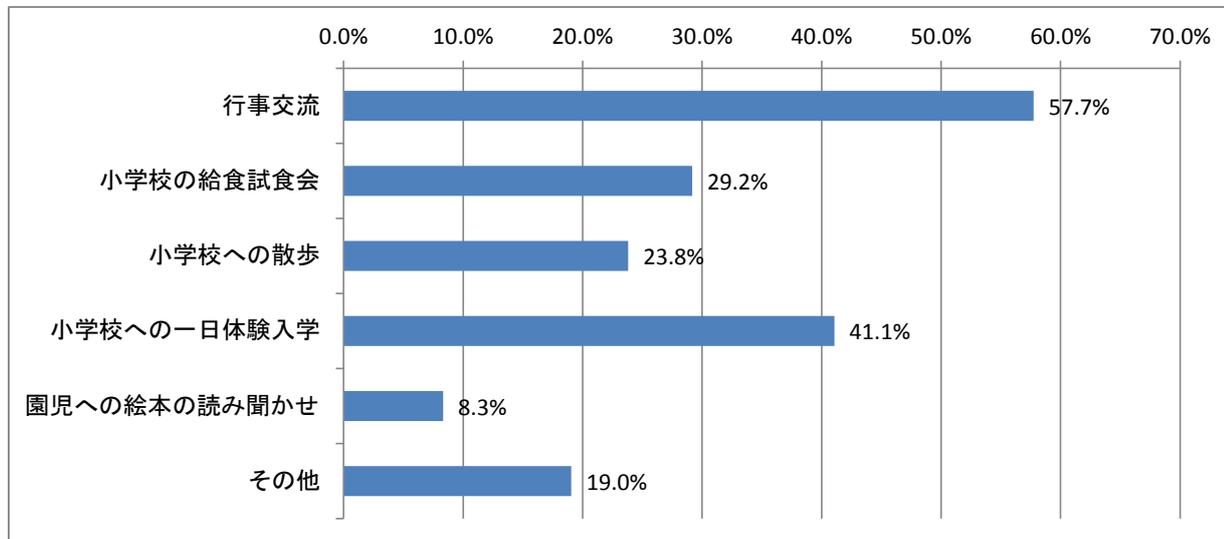
選択肢	順位及び件数											
	1位		2位		3位		4位		5位		6位	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
(ア) 入学後の自分の姿を幼児に見てもらうことで自己肯定感が育つようにすること	8	11.9%	9	13.4%	13	19.4%	16	24.2%	20	30.3%	0	0.0%
(イ) 発達のつながりを意識し、幼児期から児童期への発達の段階に対する認識を深めること	16	23.9%	13	19.4%	17	25.4%	12	18.2%	9	13.6%	0	0.0%
(ウ) 就学が、幼児にとって憧れや喜びが感じられるものとなるよう配慮すること	17	25.4%	19	28.4%	12	17.9%	11	16.7%	8	12.1%	0	0.0%
(エ) 幼児期の教育と小学校教育が円滑に接続するカリキュラムを工夫すること	13	19.4%	16	23.9%	13	19.4%	16	24.2%	8	12.1%	0	0.0%
(オ) 保幼小連携を進めるため、幼児と児童の交流、職員同士の交流に取り組むこと	13	19.4%	10	14.9%	12	17.9%	11	16.7%	21	31.8%	0	0.0%
(カ) その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
計	67	100%	67	100%	67	100%	66	100%	66	100%	1	100%

4. 幼児教育と小学校教育の接続において取り組んでいること(調査対象:全施設)

(1)子ども同士の交流について、実施している活動(複数回答)

子ども同士の交流について、実施している活動としては、「行事交流」(57.7%)が最も多く、「小学校への一日体験入学」(41.1%)、「小学校の給食試食会」(29.2%)と続いている。

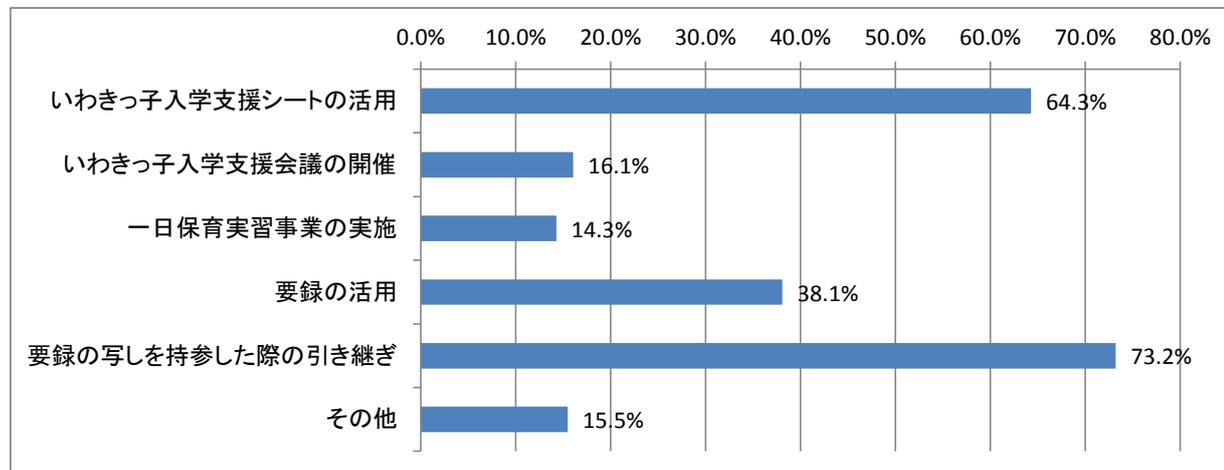
選択肢	選択件数	割合
(ア) 行事交流	97	57.7%
(イ) 小学校の給食試食会	49	29.2%
(ウ) 小学校への散歩	40	23.8%
(エ) 小学校への一日体験入学	69	41.1%
(オ) 園児への絵本の読み聞かせ	14	8.3%
(カ) その他	32	19.0%



(2)教職員同士の交流について、実施している活動(複数回答)

教職員同士の交流について、実施している活動としては、「要録の写しを持参した際の引き継ぎ」(73.2%)が最も多く、「いわきっ子入学支援シートの活用」(64.3%)、「要録の活用」(38.1%)と続いている。

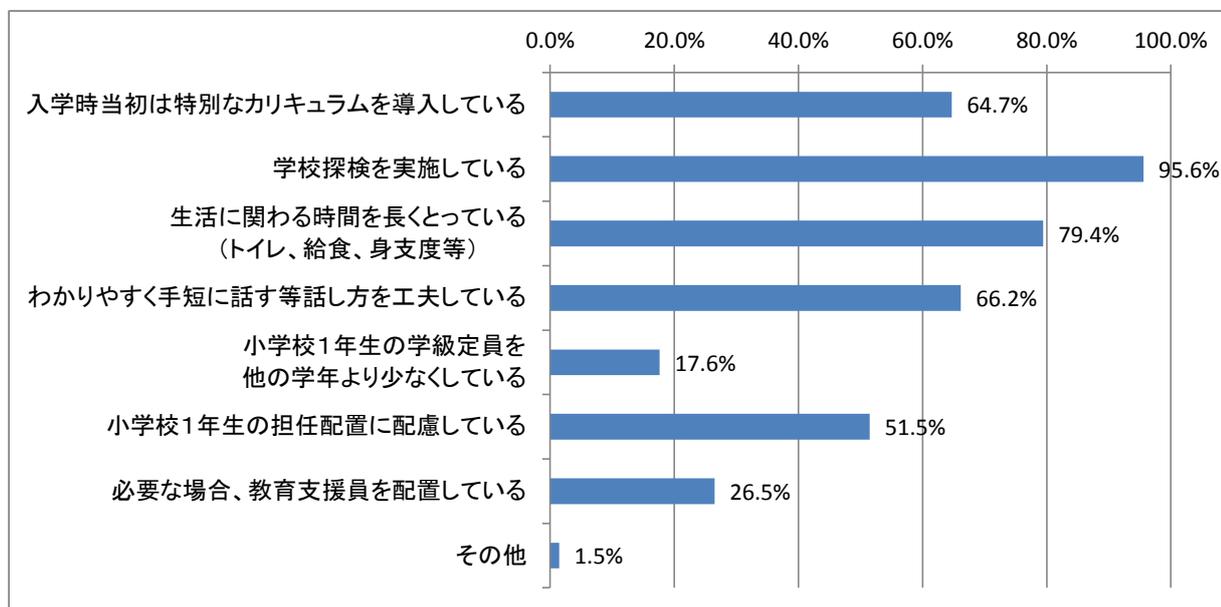
選択肢	選択件数	割合
(ア) いわきっ子入学支援シートの活用	108	64.3%
(イ) いわきっ子入学支援会議の開催	27	16.1%
(ウ) 一日保育実習事業の実施	24	14.3%
(エ) 要録の活用	64	38.1%
(オ) 要録の写しを持参した際の引き継ぎ	123	73.2%
(カ) その他	26	15.5%



5. 小学校1年生前半において教育上配慮していること(調査対象:小学校)(複数回答)

小学校1年生前半において小学校で配慮していることとしては、「学校探検を実施している」(95.6%)が最も多く、「生活に関わる時間を長くとっている(トイレ、給食、身支度等)」(79.4%)、「わかりやすく手短かに話す等話し方を工夫している」(66.2%)と続いている。

選択肢	選択件数	割合
(ア) 入学時当初は特別なカリキュラムを導入している	44	64.7%
(イ) 学校探検を実施している	65	95.6%
(ウ) 生活に関わる時間を長くとっている(トイレ、給食、身支度等)	54	79.4%
(エ) わかりやすく手短かに話す等話し方を工夫している	45	66.2%
(オ) 小学校1年生の学級定員を他の学年より少なくしている	12	17.6%
(カ) 小学校1年生の担任配置に配慮している	35	51.5%
(キ) 必要な場合、教育支援員を配置している	18	26.5%
(ク) その他	1	1.5%



6. 入学にあたって小学校に期待すること(調査対象:保育所、幼稚園、認定こども園)(自由記述)

【 主な回答(要旨) -抜粋- 】

- 入学支援シートや保育所保育要録の有効活用
- 小学校側からできてほしいことを伝えていただければ、保育所側でも配慮したい。(小学校との連携が大切)
- 子どもたちの保育所での様子を知った状態で受け入れてほしい。
- 子ども一人一人の心身の発達に合った、個人差に十分配慮した教育

7. 入学にあたり最低限できていてほしいこと(調査対象:小学校)(自由記述)

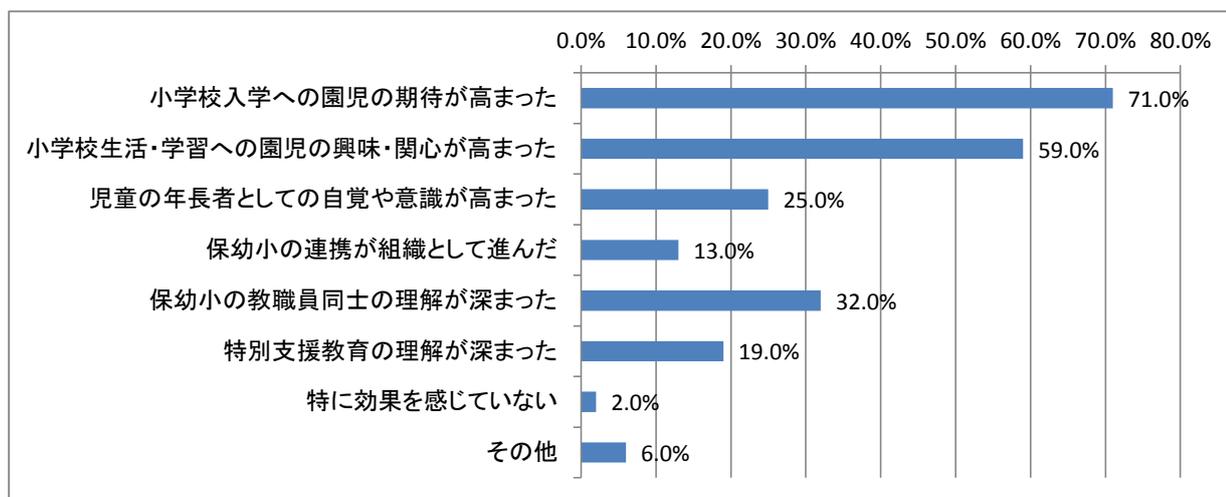
【 主な回答(要旨) -抜粋- 】

- 自分で着替えができる。
- 自分の名前が読める。
- トイレが自分でできる。
- 困ったこと(トイレ、具合が悪いなど)を言葉で伝えることができる。
- 話が聞ける。
- あいさつ、返事ができる。

8. 保幼小連携を実施してよかったこと(調査対象:保育所、幼稚園、認定こども園)(複数回答)

保幼小連携を実施してよかったこととして、保育所、幼稚園、認定こども園では、「小学校入学への園児の期待が高まった」(71.0%)が最も多く、「小学校生活・学習への園児の興味・関心が高まった」(59.0%)、「保幼小の教職員同士の理解が深まった」(32.0%)と続いている。

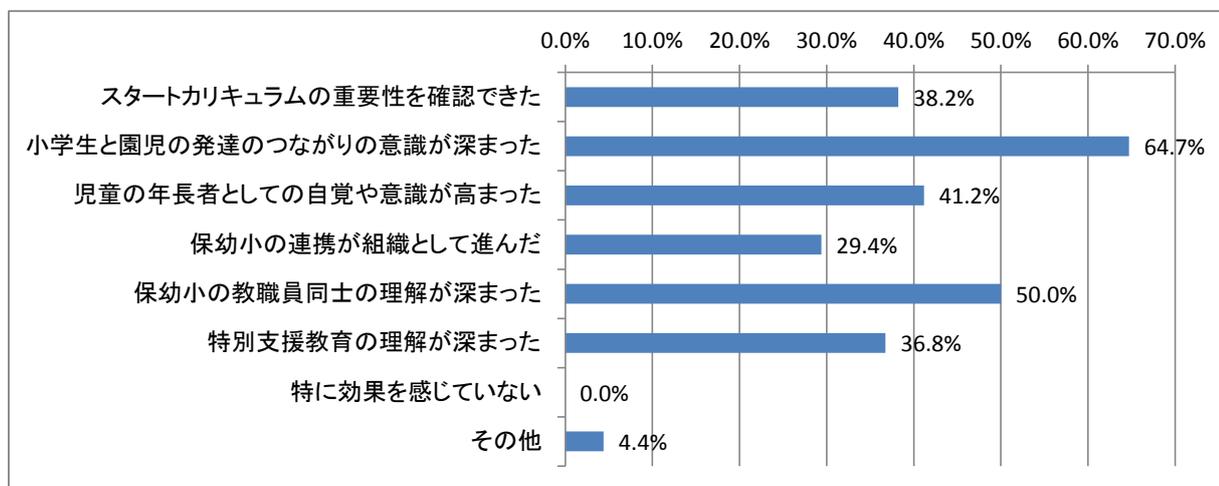
選択肢	選択件数	割合
(ア) 小学校入学への園児の期待が高まった	71	71.0%
(イ) 小学校生活・学習への園児の興味・関心が高まった	59	59.0%
(ウ) 児童の年長者としての自覚や意識が高まった	25	25.0%
(エ) 保幼小の連携が組織として進んだ	13	13.0%
(オ) 保幼小の教職員同士の理解が深まった	32	32.0%
(カ) 特別支援教育の理解が深まった	19	19.0%
(キ) 特に効果を感じていない	2	2.0%
(ク) その他	6	6.0%



9. 保幼小連携を実施してよかったこと(調査対象:小学校)(複数回答)

保幼小連携を実施してよかったこととして、小学校では、「小学生と園児の発達のつながりの意識が深まった」(64.7%)が最も多く、「保幼小の教職員同士の理解が深まった」(50.0%)、「児童の年長者としての自覚や意識が高まった」(41.2%)と続いている。

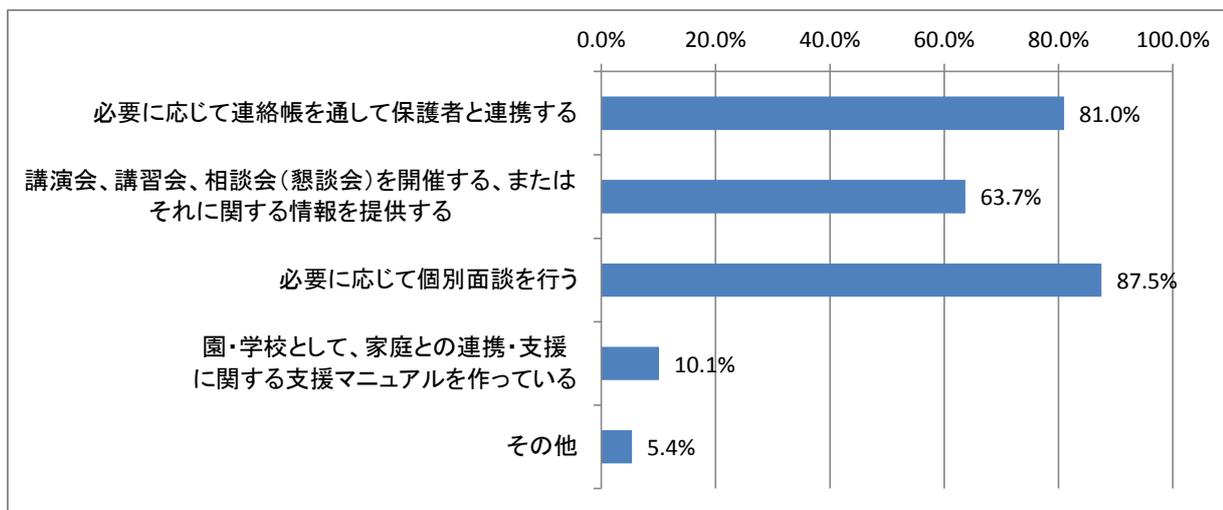
選択肢	選択件数	割合
(ア) スタートカリキュラムの重要性を確認できた	26	38.2%
(イ) 小学生と園児の発達のつながりの意識が深まった	44	64.7%
(ウ) 児童の年長者としての自覚や意識が高まった	28	41.2%
(エ) 保幼小の連携が組織として進んだ	20	29.4%
(オ) 保幼小の教職員同士の理解が深まった	34	50.0%
(カ) 特別支援教育の理解が深まった	25	36.8%
(キ) 特に効果を感じていない	0	0.0%
(ク) その他	3	4.4%



10. 家庭との連携について取り組んでいること(調査対象:全施設)(複数回答)

家庭との連携について取り組んでいることとしては、「必要に応じて個別面談を行う」(87.5%)が最も多く、「必要に応じて連絡帳を通して保護者と連携する」(81.0%)、「講演会、講習会、相談会(懇談会)を開催する、またはそれに関する情報を提供する」(63.7%)と続いている。

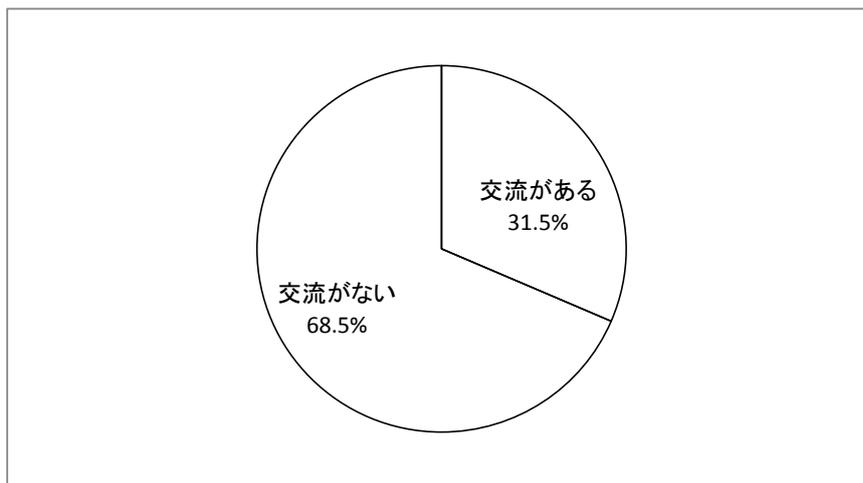
選択肢	選択件数	割合
(ア) 必要に応じて連絡帳を通して保護者と連携する	136	81.0%
(イ) 講演会、講習会、相談会(懇談会)を開催する、またはそれに関する情報を提供する	107	63.7%
(ウ) 必要に応じて個別面談を行う	147	87.5%
(エ) 園・学校として、家庭との連携・支援に関する支援マニュアルを作っている	17	10.1%
(オ) その他	9	5.4%



11. 他の就学前施設との交流の有無(調査対象:保育所、幼稚園、認定こども園)

保育所、幼稚園、認定こども園においては、68.5%が他の就学前施設と交流がないと回答した。

選択肢	選択件数	割合
交流がある	28	31.5%
交流がない	61	68.5%

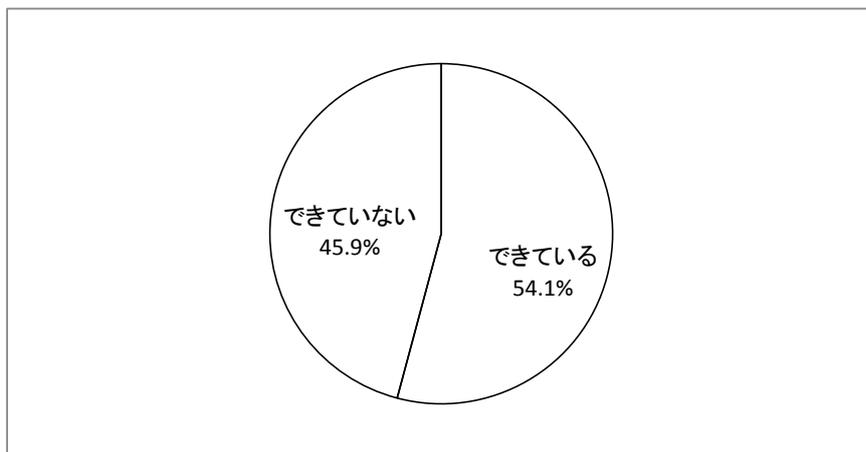


12. 望ましい保幼小連携ができていると思うか(調査対象:全施設)

望ましい保幼小連携ができていると回答した施設の割合は54.1%で、できていないと回答した割合を上回っている。

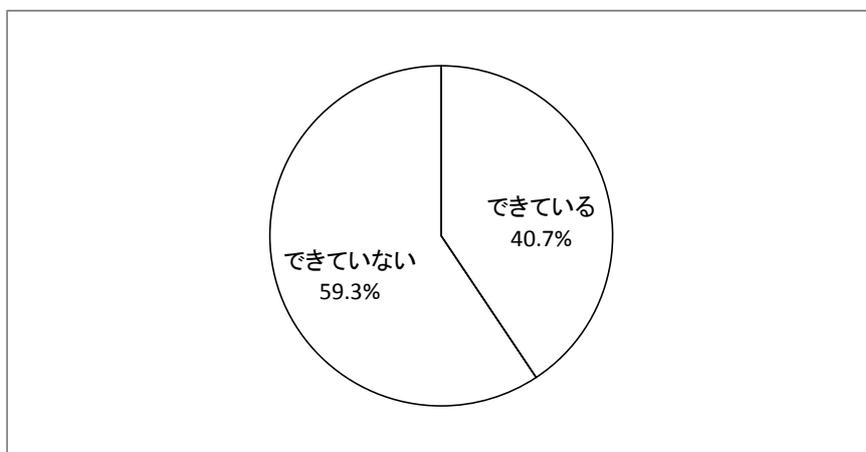
【全施設】

選択肢	選択件数	割合
できている	85	54.1%
できていない	72	45.9%



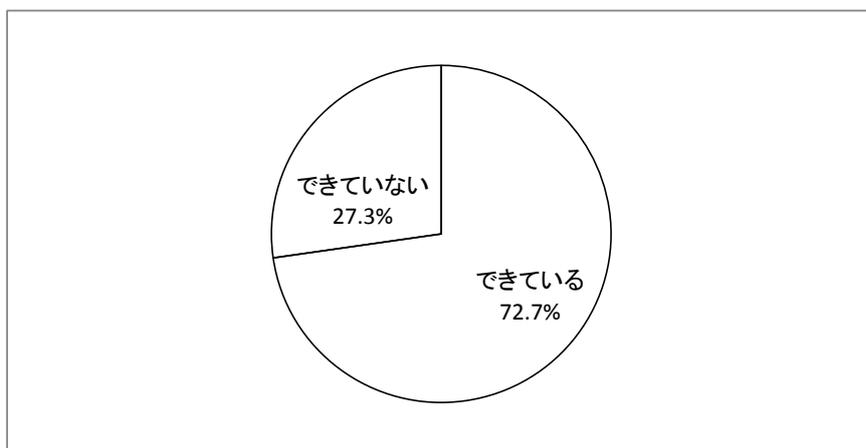
【保育所、幼稚園、認定こども園】

選択肢	選択件数	割合
できている	37	40.7%
できていない	54	59.3%



【小学校】

選択肢	選択件数	割合
できている	48	72.7%
できていない	18	27.3%



13. 保幼小連携について感じていること・考えていること(調査対象:全施設)(自由記述)

【 主な回答(要旨) -抜粋- 】

<保育所(園)、幼稚園、認定こども園>

- 地域によって連携に差がある。
- 小学校側で入学支援シートや保育要録を有効活用してもらいたい。
- 学校からくる行事日程が、保育園側としてはちょっと忙しい時期となっている。
- 保育所でやっていることを小学校の先生に知って欲しいし、保育所側も小学校でやっていることを知りたい。保育士が小学校で一日見学あるいは実習の機会があってもいいと思う。小学校へ送り出した子が、小学校を卒業する頃にはどのように成長したか興味がある。一年生だけの交流だけでなく、他の学年との交流もあっていいと思う。
- 人員不足により、日常保育、園行事のほかに連携活動までできない状況。
- 幼稚園職員ばかりでなく、小学校職員にも園に訪問し園児の生活している様子を見てもらいたい。
- 小学校だけでなく保育所と幼稚園の交流なども検討していく必要があると思う。
- 入学への不安を軽減するために小学校訪問を複数回儲けたいが、なかなかスケジュールが噛み合わない。
- 小学校側の希望を知りたい。
- 進学する小学校に呼んでいただきオリエンテーションを兼ねて行事を半日ほど持っていただくのは、良い取組だと思う。降園に合わせて午後に設定していただいているのも、各幼稚園の行事への支障が少なくありがたい。
- 小学校進学に向けての情報交換にあたって、直接出向くところや電話で済ませるところもあり、各幼稚園と各小学校との間で共通のルールがあるといいと思う。
- 各々の団体だけの研修会は行っているようだが、全ての幼保小が集まりお互いの情報を交換する機会が少ないので、お互いの教育内容理解まで出来ていないように感じる。そういった場が増えることを望む。
- 幼小の連携は大切だと思うが、実際に交流の機会を設定するとすると、双方ともそれぞれのカリキュラムでめいっぱいなので、時間の確保が難しいと思う。
- 学習面に関しては、より具体的な目安を提示していただくと、家庭とも連携しながら取り組めると思う。
- 小学校へのあこがれを持ち入学することが一番の入口だと思う。
 - ① 幼児、児童の交流については、幼保小の年間計画への位置付け、目標の明確化が必要であり、交流のための相互のカリキュラム作りなどが必要と思われる。
 - ② 小学校教師、幼稚園教師、保育士の交流についてはコーディネーターや研究者をオブザーバーに加え子どもの発達の連続性をふまえた連携方策の構築や評価が必要と思われる。
 - ①②については各園での取り組みがなかなか難しいが、小学校への円滑な接続のための教育課程の編成、指導方法、指導内容について各園で幼児期に育てたい力をしっかりと育てられるよう努力し、小学校以上の学びにつながるよう、又、つながっているか示せるよう努力したい。
- 幼稚園では、年齢に応じた育ちのあり方を大切にしたい。
- 要録提出の際の引き継ぎについて、時期や手段、方法が各小学校でまちまちである。もう少し統一性をもつべきではないかと思う。

<小学校>

- 連携は、大切だと思うが、連携を始めたことで会議や行事が多くなり、それぞれの学校のキャパシティを超えるような連携になっては、長続きしないのでは。(小学校や保育・幼稚園等は子どものためならばと無理をしても始めてしまいがちなので)
- お互いの活動を理解し、共有していく内容の確認をしていくことにより、連携も深まっていくと思う。
- 本校へ入学する園児は複数の保育園・幼稚園からの入学のため、連携を行う際の連絡調整が難しい。
- 幼保小連携は大変重要なこととは認識しているが、保育園や幼稚園と時間を調整しながら話し合う場をつくるのが難しい。
- 行事だけでなく、日常の交流が大切であると感じている。
- 小学校入学にあたり、困り感のある子どもの情報を保幼から聞くことは、新1年生の学級を編成する上で重要である。
- 幼児教育と小学校教育の「育てたい資質・能力」の共有化をはかっていくことが重要である。
- 保幼小連携は子どもたちのスムーズな学校生活を送るためには、とても大切なことである。しかし、小中連携も見据えていかなければならぬし、保幼小連携も考慮していかなければならないことを考えると、今現在、できることを継続していくことが大切であり、上乘せして連携していくと時間が非常に足りないという問題が生じてくる。
保幼小連携を考えることは、その業務に対する時間の確保をすることが大切であり、現在の業務や人員から考えると無理が生じてくるということが予想される。
- 連携事業により、1年生は年下の子どもに対して、優しく接しようとする思いやりの心が育つと考えている。

- 実際に保育園・幼稚園に行くことで、児童が好きな物や得意なことが分かる。児童のいいところを知り、伸ばすためにも、積極的に園に訪問したり、園と面談したりするとよいと考えている。
- 小学校入学時点での子どもの育ちは、家庭での育ちは当然だが、育った園・所によって、大きな差を感じる。
- 各園・所の特色（英語や運動等）よりも、幼児期に必要なものを優先してほしいと感じる。